

随想 同時並行

～ 移り変わる報道に翻弄される前に ～

加藤 宏光

二月も末の二十七日の朝のこ
とである。同月の朝日新聞二十
六日夕刊と二十七日朝刊にザッ
と目を通した。時系列を無視し
て大きな見出しから小さなもの
へと取り上げられたニュースを
羅列してみる。

■二十七日朝刊

《倒壊ビル昨午地震で損傷―復
数証言 専門家調査『補強を』―
市点検は『問題なし』》
《京大入試中 ネットに問題投
稿》
《リビア政権側巻き返し図る―
支持者に武器 基地奪還》
以上一面

《デモ予告ウルムチ緊張―中国
当局、小銃抱え巡回―(中国民

主化を求めるジャスミン革命に
民族運動が結び付くことを恐れ
る中国政府が取り締まりを強化
し。著者注》
以上四面

《T P P 失速感―政府が推進の
催し・歯切れ悪い説明、―民主
反対派も集会・外資阻止へ勢い
(国際化時代における産業経済
のありようと政府の役割を概説。
著者注)》
以上五面

《三重で大量死鳥インフルか。
(二十六日、南伊勢町の養鶏場
で大量死の例から、遺伝子検査
によりH P A I ウイルスを検出、
二十七日未明から二十六万羽の
殺処分開始。全国で二〇例目。
著者注)》
以上三八面(社会面)

《ハンドル奪いバス横転―殺人
未遂容疑 就活帰り? 学生逮捕
(大阪から鹿児島行き夜行バス
を横転させ、殺人未遂で逮捕さ
れた容疑者は吉備S A 過ぎで
「降ろして欲しい」と要望、無
理にハンドルを切りバスを転覆
させた。会社説明パンフを所持
していることから、就活が何ら
かの関係がある可能性を示唆。
著者注)》
以上三九面(社会面)

■二十六日夕刊
《浅間山荘》中国系企業に―
歴史の皮肉感じる―(事件を起
こした連合赤軍は毛沢東思想を
基調とする親中国派、中国資本
主義の資本が歴史の痕跡を投資

目的? で購入する事実は歴史の
皮肉。著者注)》
以上一四面(社会面)
《3 D S 欲しい―九〇〇人が長
い列。(特殊なメガネを必要と
しない立体映像ゲーム機、ニン
テンドー3 D S (定価二万五、
〇〇〇円) を求めて九〇〇人が
列をつくった。任天堂は三月ま
でに四〇〇万台を売る予定)》
以上一五面(社会面)

毎日、毎週種々の事件や記述
がさまざまなマスコミを通じて
報道されている。何となく感じ
てはいたが、こうして列挙して
みると驚くほどの広範囲にわたっ
ている。そして、日々の出来事
が読者の目を引くように強調さ
れている。確かにニュージーラ

ンドの地震は突発し、しかも被害者に日本人が多数含まれていることを考えても一面に取り上げられよう。

また、リビアの民主化運動は、この四〇年に渡って専制政治を行ってきたカダフィ大佐がいかに終末を迎え、今後どのような形で中東隣国や中国へ影響を与えるのか、目を離せない思いがする。つい先頃はエジプトの民主化運動が最大トピックであったが、民衆の力で専制的政府が倒され、その流れはリビアに引き継がれているのである。エジプトとの大きな差は軍の姿勢であり、狂犬と称されるカダフィ大佐がデモ隊を敵と見なし傭兵をもって攻撃させているために、短期間に多数の死者が続発していることであろう。

しかし、次いで発生したニュージーランドの大地震でニュース面は覆われた。悲劇の原因に人為的な可能性が感じられるとマスコミに勢いがつくのが感じられる。もちろん人為的要因で人的被害が招かれることは忌むべ

きであろうが、言論を武器に勢いにのって嵩にかかるとは避けねばなるまい。

就職活動をしている学生が何らかの事情で追い込まれて、結果バスを横転させ、殺人未遂の罪に問われる、という事件は世相を反映していると思うが、物事の順位を決めかねる若い世代の特徴を表すものと実感させられる。容疑者は二二歳で海外留学経験を有するとか。本来成人としての判断基準を求められる年齢をして未熟と言わざるを得ない行動を見ると、この国の教育システムの不備に原因を求めたくなるのは著者のみではあるまい。

そして、ニンテンドー3DS（最新のゲーム機）を求めて九〇〇人も列ができる国の平和を実感せざるを得ない。ちなみに3DS一台の価格二万五、〇〇〇円はフィリピンの平均的月収を上回る。

そして、わが業界の最大関心事である鶏インフルエンザ（HPAI）に関しては、社会面の

片隅に追いやられているのが現状である。次々に起きる世界規模の混乱に紛れて、業界の浮沈がかかる鶏インフルエンザ問題が社会から忘れ去られようとしている事実を冷静に見つめ、著実な地歩を固めるべくわれわれの取るべき道を見極めたいものである。先日（二月二十八日）に奈良県の採卵農場でもHPAIが発生した。われわれの業界ではいまだに最新の事件であり、ヒタヒタと迫る危機に恐怖感を募らせている生産者およびそれに関連する業界にとっては社会自体に忘れてほしくない大きな課題で、今後の対処方針にも世論が大きな影響を与える。そして、世論はマスコミの姿勢に極端に影響される。そのマスコミが日々に起きるセンセーショナルな事件にある意味翻弄されるとしたら、われわれはどのような形で背筋に骨を通すべきか、業界挙げて真剣に考えるべきときであろう。